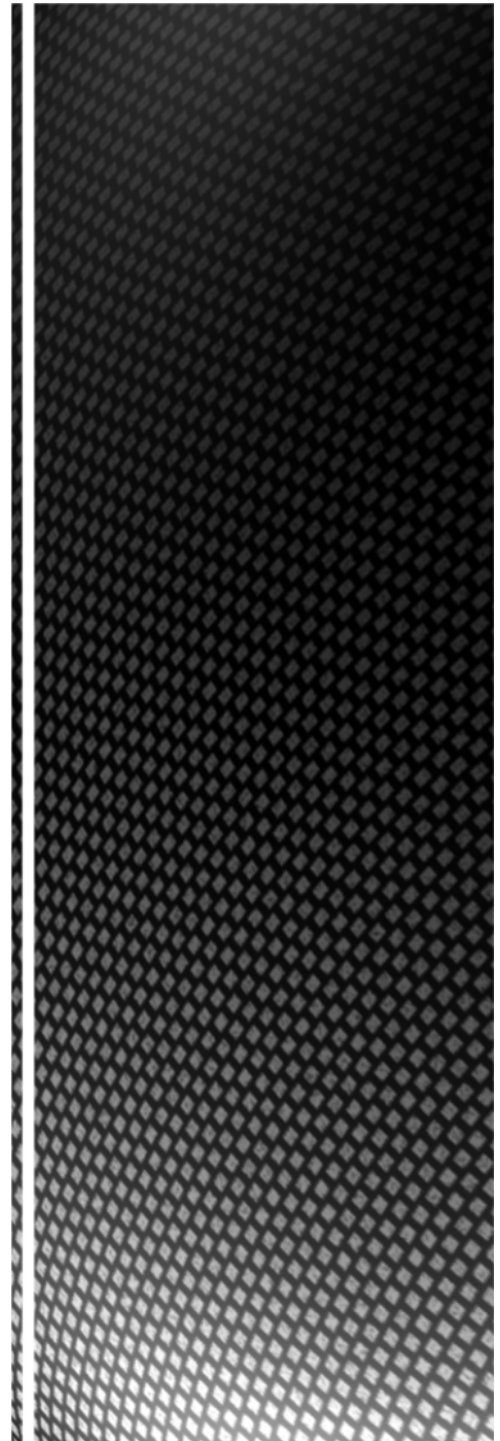


# プラント技術者の会の経緯と活動

2012年10月21日

長谷川泰司



## ■発足までの経緯(千代田化工での活動)

### ●東洋エチルプラント問題

- 1970年新宿柳町交差点で四エチル鉛(ガソリンのアンチノック材、猛毒)を含む自動車の排ガス問題が浮上。
- それ以前に四エチル鉛の製造プラント(東洋エチル)を千代田化工が受注。建設が進んでいた。
- 組合が試運転における組合員の安全問題として取り上げた。
- 一方で、自ら作るプラントが公害を出すことに対し、一部の組合員の間で議論がされ始めた(技術論研究会)。
- 1971年1月12日の東洋エチル工場閉鎖に伴い、プラントの試運転は回避されたが、この問題を契機に組合の中に公害を考える組織が発足した(公害問題委員会)。

### ●公害問題委員会

- 10名前後のメンバーで活動を開始
- 組合の恒常的な機関ではなかったが、その分、執行部の規制がない自由な活動が行われた。
- CEU(エンジニアリング産業労働組合協議会)、とりわけTEC(東洋エンジニアリング)労組との交流を通じ、CEUとして公害問題にどう取り組んでいくか、が課題になりつつあった。

## ■発足までの経緯(千代田化工での活動、続き)

### ●三菱石油水島製油所原油流出事故

- 1974年12月18日瀬戸内海に大量の重油が流出した。
- プライムコントラクタとして、この事故の責任をどう取るべきか、という問題提起はしたものの、公害問題委員会としては技術的な観点でほとんど成果を上げられず、熊谷組の基礎工事の欠陥ということで幕が引かれた。

### ●公害専門委員会

- 1975年(?)、問題委員会から専門委員会となり、組合の1専門機関と位置付けられた。
- このころから、TEC労組の「公害問題専門委員会」との交流が強まった。
- 一方、現場での事故、下請け会社や現場事務所の女性社員解雇問題、三里塚闘争、水俣病問題、全金本山問題、などが次々と生起し、それらの課題を通じて、何人かの千代田メンバーはTECメンバーと(個人的な?)交流を深めていった。

### ●主なメンバーの千代田化工退職

- 1980年頃から組合活動が停滞しはじめた。
- 1985年頃から、公害問題委員会で活動していた多くの組合員が千代田化工を退職した。
- 1985年以降、千代田化工を退職したHと、TECのKさんとの間で、年に何回か会うという個人的な交流が続いていた。
- 1990年初めから、千代田化工の大合理化が始まった。3000人いた社員は1000人まで削減した。

# 前史

## ■発足までの経緯(TECでの活動)

### ●闘う労働組合への志向

- TEC労組は、元々、総評合化労連系(三井東圧)の組合として一定程度の闘う体質を持っていた。
- 69年 - 70年代前半、反戦系の「労働問題研究会」を中心に組合執行部への参画による「闘う労働組合」運動を追及。
- エンジニアリング産業労働組合協議会(CEU、1967結成)を通じて、千代田グループとの交流が図られる。特にプラントエンジニアとして、公害問題に関わる認識を共有。
- しかしながら、70年代後半、過激派キャンペーンにより執行部から排斥され、長い沈黙の時代へ。闘いは個人レベルでの継続となる。

### ● 労組としての闘いの例

- 70年安保、ベトナム反戦等、政治課題への取り組み
- 臨時嘱託の正規雇用運動
- 公害問題専門委員会の設立(千代田化工と同様)。高木仁三郎氏を招いた勉強会も開催。
- 原発ビジネス参画への反対運動。具体的には東芝への派遣(数十名規模)阻止運動を行うも敗北。
- 全金本山労組支援

## 3. 11以降の動き

### ■3. 11東京電力福島第一原子力発電所の大事故を受けて

#### ●「プラント技術者の会」結成に向けて

- 5月7日、TEC OBおよび現役TEC社員有志19名（紙面参加を含めると20名）による「福島原発問題を話し合う会」が開かれた（2回目は8/27）。
- 6月17日、元TECメンバーFさんが、「私の脱原発宣言」を発信した。
- 7月2日、上記「宣言文」を触媒にして、元TEC、元千代田化工のメンバー5名で意見交換会を開く。その場で、「プラント技術者の会（仮称）準備会」を8月7日に開催すること、周囲の心あるプラントエンジニアに呼びかけること、を決めた。

# プラント技術者の会として

## ■会の発足

- 8月7日(日)、「プラント技術者の会」発足。7名参加。
- 位置づけ、活動、運営などについて議論し、以下の合意を見た。
  - (1)「プラント技術者の会」は反・脱原発の立場に立つプラント技術者の自主的な集まりで、以下の3点を「立ち位置」とします。
    - ① プラント技術者としての経験、知見、メッセージの発信
    - ② 同時に一市民としての責務を果たす
    - ③ 学習により、我々自身の反原発へのより強固な確信の獲得
  - (2) 主な活動
    - ① 学習活動(定期的な学習会、ネット・文献・書籍情報の交換)
    - ② 外部への啓蒙、広報ならびに交流活動(原子力資料情報室、たんぽぽ舎等を通じた情報交換と交流)
    - ③ イベント情報の交換
  - (3) 会員と運営
    - ① プラントエンジニアリング関連のOB・現役を対象とする。
    - ② 特に、規約、代表は設けず、会費も徴収しない。連絡先は川井とする。
    - ③ ホームページあるいはブログの開設が望ましいが、現在のところ適任者が見つからず、課題として残す。
- 当面の調査対象として、当時、言葉だけが先行し、内容が不明であった「ストレステスト」を採り上げることとした。

# プラント技術者の会として

## ■会の現状

- 現在、22名がメンバー登録
- 月1回～2回の学習会と、不定期な野外活動の実施
- 各メンバーの自主的な調査活動

## ■この1年3か月の活動

- EU Stress Test Specificationの翻訳
- ストレステスト意見聴取会 井野委員、後藤委員への側面支援
- パンフレット「ストレステストQ&A」の作成
- 八千代市、松山市、eシフト市民集会、たんぽぽ舎学習会での講演
- 議員勉強会、院内集会でのプレゼンテーション(3回)
- 欧州反原発メンバーとの交流会への参加
- 雑誌「世界」、「科学」(岩波書店)への寄稿
- レイバーネットTVへの出演
- HP立ち上げ
- 原子力規制委員会、原子力規制庁の動向チェック(着手)
- 国会事故調報告書内容の論点整理(着手)
- 定例学習会の開催(2012年10月6日で20回)
- 野外活動4回(東海村、第五福竜丸、つくば防災研究所、足尾銅山と「正造さんと原子力」講演会)

ありがとうございました

